

# 登山月報



**8月11日** みんなで山を考えよう!  
祝「山の日」  
全国「山の日」協議会  
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

インドヒマラヤ2017遠征報告 .....	2
パラクライミング・ワールドカップ初参加 視覚障害(B2) 山崎康興 ..	5
第109回 Mountain World .....	6
「山の日」制定記念一ふるさとの山を登ろう .....	7
日韓交流登山について .....	8
国立登山研修所創立50周年記念式典・祝賀会 .....	8
UIAA総会・理事会/UAAA総会報告 .....	9
冬山登山の事故防止について(通知) スポーツ庁 .....	11
平成29年度第3回理事会報告 .....	13
JMA、寄贈図書、編集後記 .....	13

# インドヒマラヤ2017遠征報告

## 1. はじめに

この度、ご協力いただきました関係各位にまずは感謝申し上げます。メンバー3人(上田幸雄、黒田誠、馬目弘仁)無事下山、帰国いたしました。

登山内容ですが、当初の目的であるダラムスラ峰西壁は中止し、代わりに未踏峰(無名峰、高度5,620m)の東壁を初登攀、初登頂してまいりました。当初の目的を果たせなかったことは少々残念ではありますが、美しい未踏の岩塔に立てたことで十分に楽しいクライミングを堪能することが出来ました。帰国して間もないため、簡単ではありますが以下に短い報告をさせていただきます。(詳細を記した報告書は、後日作成予定です。)

## 2. BC入り~その後の経過

2泊3日のキャラバンを経て、9月18日にBCに到着。午前中は少々回復するも午後には雨が降るモンスーンのような天気からのスタートでした。翌々日にモレーンを偵察、ダラムスラ峰に挑戦した過去の隊が通ったであろう氷河の末端は崩壊が激しく、大きく迂回するモレーンのコースに可能性を見出してBC帰着、そして夕方からまた雨。そして3日間連続の本降りの雨々に突入。その間、モレーン帯の土砂崩れの轟音が響く。BCより遠望するダラムスラ峰の氷河末端周辺には落石が頻発しているようで黒々と変色してしまっ

た。9月26日、天候回復と信じ、高度順化活動のためにBC正面にある未踏峰(?)、を登ることにして出発、高度4,750mのテラスでオープンビバーク、そして夜にはまたシトシトと雨。天候が安定しないので翌日の予定を変更、一気に頂上を往復して同地点帰着としてアタック。昼には頂上稜線の一角(5,400m)に登頂して昨晚のビバーク地点でもう1泊、夜にはまた雨。



アタック時E-Tos氷河



E-Tos氷河周辺

順化活動からBCに帰着してもスッキリしない天気が続く。午前中は晴れていても午後には必ず雲が沸き上がってきて雨を降らせる。ヒマラヤ遠征でこれ程天候が安定しないのは初めての経験であった。あきれる程で苦笑する日々が続く。

その間、BCでは諸々の事情を考慮して目標の変更を検討した。結果、順化活動中に遠望できたトス氷河の西支流奥院に遠望できた岩峰に挑戦することに決定。リエゾン・オフィサーの承諾(IMFの承諾)も得てモチベーションが高まった。ただ、詳しい地図が手元に無いのでとにかく近くに行って、良く見て、そして登って見ないととにかくわからないという感じのアタックであった。トポ無し、地図無し、それをヒマラヤで実践することになるうとは、そういうものもなかなか冒険心がくすぐられて良いものかもしれない。

## 3. 無名岩峰へのアタック

10月2日、アタック。念のため5日間分の食料を用意して出発、モレーン歩きから西トス氷河を遡って岩峰基部へ。ヒドンクレバスが多そうで、かといって岩壁基部も落石の危険が多くABC設営適地が限られる。ABCの標高は約5,090m、不確かな概略地形図によると、岩峰の標高差は最大でも500m程度ではないかと思積られる。ガスコンロと1泊分の食料のみを持参してオープンビバーク覚悟の軽量化優先、短期速攻にチェンジしてトライすることに決定。

10月3日、AM5時前にABC出発。岩峰東側のルンゼを5Pで稜線、その稜線をコンテで200m程前進して、1Pラッペルして岩峰本体に取り付く。このラッペルダウン、登り返しがかなり厄介そうなので少々勇気がいったが思い切ってロープを引き抜く。そこからミックス帯を5Pでヘッドウォール基部に到

着。ここから先が勝負となりそうなのでさらにデポして軽量化を図る。3人中2人は空身、ヘッドランプ、テルモス、エナジージェルだけを持つ。絶望的なスラブ帯に出くわす覚悟もしていたが氷が上部まで続いている感じなので大いに活気づいた。困難なミックスクライミングを経て氷壁帯に合流、その後幸運にも雪壁を経由して頂上直下のコルに到達(6 P)出来た。予想に反してなかなか頂上が見えてこないの心配になってきた頃だったので安心したものだ。頂上には巨大なボルダーが帽子のように乗っかっていた。素手になってハングと格闘して再頂点に立つことが出来た。時刻はPM 4時、ほぼ無風快晴。この時は本当に天気恵まれたことを感謝。頂上の標高は約5,620m、予想より200m程は高く、西トス氷河奥院では明らかに最高峰であった。手持ちの概略図のなんといい加減なことか。まあ～だからこそ面白いのだけれど。「初登頂」というのは自分にとって初体験、ヒマラヤでは小さめの山ではあるけれどとても嬉しかった。

さて、下降途中、PM 7時30分には大事をとってビバークすることに決める。雪を削ってテラスをつくってそこでオープンビバーク。かなり激しい寒さでウトウトすることも許されず、ひたすら膝をマッサージして朝を待つ。なかなか辛いビバークだった。

10月4日、7時頃から下降開始。懸案の登り返しも最適ルートが見つかってイージーパス、強烈な日射に汗だくになりながらAM 11:30頃にABC帰着、そして昼飯をたっぷり食べてからゆっくりとBCに向かって下降した。

(馬目弘仁 記)

## 1) 遠征結果

当初、目的としていたダラムスラ西壁は登ることが出来なかったが、代替の山として推定5,620mの未踏峰(標高差500m・16P・ED-)に登頂した。



頂上



5620m 峰東面ライン

## 2) 行動概要

- 9月13日 成田～デリー
- 14日 ～IMF泊～ブリーフィング IMF泊
- 15日 ～クル(Kullu)
- 16日 ～トシュ(Tosh) 2,500m～キャラバン
- 17日 キャラバン
- 18日 キャラバン～BC 4,250m
- 19日 レスト
- 20日 偵察・順化・荷揚げ E-Tos氷河 4,430mまで往復
- 21～24日 レスト・悪天 BC停滞
- 25日 デポ回収
- 26日 順化登山 アプローチ 4,750m泊
- 27日 順化登山 5,500m P往復 4750m泊
- 28日 順化登山 下山 BC
- 29日～10月1日 レスト
- 10月2日 アタック アプローチ 5100m泊
- 3日 アタック 頂上～5300m泊
- 4日 アタック 下山 BC
- 5～7日 BC
- 8日 BC～トシュ～マニカラン(Manikaran)
- 9日 ～デリー IMF泊
- 10日 デブリーフィング IMF泊
- 11～13日 デリー滞在・解散

## 3) 詳細報告

### ① IMF

宿泊可能(1泊朝食付1,200ルピー) 1ルピー=2円  
ドミトリー・シャワー有  
夕食・昼食も状況に応じて利用できる。近郊のレストランまで徒歩15～20分  
衛星電話、GPS、無線機は許可が必要(ブリーフィングで確認)  
多分、ガス缶購入可能(450g缶 600ルピー?)

## ②リエゾン・オフィサー（民間人）

エージェントを経由して、IMFから報酬などが支払われ、装備（テントなど）を貸与されている。非常に紳士的で協力的なリエゾンであった。

## ③エージェント（アイベックス）

BCまではガイドが同行。BCにはコック・キッチンボーイが滞在。

食事は米、チャパティー、ダル、サブジー主体。

BCテントはレンタルしたが、持参するのがベター  
ガス缶（450g缶・プロパン25%、イソブタン30%、N-ブタン45%）18ドル

## ④天候

9月中は、雨季が終わっていないのか？ 不安定な天候が続いた。午後になると南に開けた谷筋から雲が湧き始め雨・あられが降った。特に9月22日夕方～24日夕方まで2日間雨が降り続き、6,000m以上は30～50cmの積雪と思われた。10月になってからは天候が安定したが、日を増すごとに気温が低下した。

## ⑤ダラムスラ周辺の状況

Tos氷河、E-Tos氷河は後退激しくBCとなった台地から100mほど下降して氷河に降り立つ。氷河の状態は安定しているようで、ルートミスさえしなければ、歩きやすい部類だと思う。ただし、氷河の側面は不安定な堆積物が多く落石などの危険性が大きい。ダラムスラの取りつきも氷河側面のガレ場の登下降が必至で、雨で緩んだ斜面は非常に危険であると判断し、9月中に予定していた高度順化・偵察が不可能で目標を転身した一因でもある。

周辺の山々は魅力的ではあるが、各ピークに至る枝氷河は懸垂氷河状態。サイド・モレーンも不安定。またセラック・クレバスも多いようで通過には細心の注意と時間を要すると思われる。

## ⑥高度順化

ダラムスラ西壁の偵察を兼ねて行う予定だったが、BC対岸の5,666m Peakに変更した。4日間の予定で出発したが、結果として5,400mのピーク（5,666m Peakの肩）を往復し、ダラムスラ西壁へ至るルート（サイド・モレーン・枝氷河上部）の状況を確認した。

また、BC奥（W-Tos氷河（仮称）上流の岩峰（5,620m峰）を確認。ダラムスラ西壁へ至るアプローチの状況、天候などから判断して代案として検討することにした。

## ⑦5,620m峰 アタック

高度順化登山の後、協議を行った結果、5,620m峰をアタックすることを決定した。

理由として

1) ダラムスラ西壁へ至るサイド・モレーン、枝氷河の状態が不安定

2) 上記に加えて、天候が相変わらず不安定でアタックに不安がある。

結果として10月から天候が安定し好天に恵まれた。5日間の予定で入山。

## 10月2日

BC（7:30）～ABC（14:00）

BCから穏やかな斜面をのんびり登っていく。各自のザックはチンドン屋状態。W-Tos氷河末端で靴を履き替え、氷河を歩く。途中から、アンザイレンして5,620m峰基部の氷河上にABC設営。テント設営後、取り付きを確認。

## 10月3日

ABC（5:10）～コル（7:50）～頂上（16:00）～BS（19:00?）

アタックの内容に関しては馬目手記参照

## 10月4日

BS（7:00）～ABC（10:00～11:50）～BC（14:00）



核心ピッチ

## パラクライミング・ワールドカップ初参加

視覚障害(B2) 山崎康興

今年、私は小林幸一郎選手、会田祥選手とともにクライミング(視覚障害)で日本代表に選出いただき、10月上旬はじめて国際大会に参加してきました。

2年に一度の世界チャンピオンシップのパラクライミング部門には、日本選手も定期的に出場しておりますが、パラクライミング・ワールドカップには、いままで日本からは出場しておりません。そこで今回は、国際経験と大会視察を兼ねて出場を決めました。

パラクライミング・ワールドカップは、毎年5回程度ヨーロッパを中心にラウンドするクライミングカップの障害者カテゴリーです。私は、その第4戦「イギリス大会」に参加してきました。日本語が全く使えないイギリスを舞台にした国際大会に目が不自由な私が初参加することに不安もありましたが、大会は私を温かく迎えてくれました。

イギリス到着初日、ヒースロー空港からロンドン市内へ移動し、若干の観光とジムでのウォーミングアップを兼ねて、ロンドン市内に宿泊しました。

日本のクライミングジムは元倉庫などを利用しているようですが、こちらイギリスでは元お城を使用していました。ジムとはいえ、スケールには驚かされます。歴史のある建造物とインドアクライミング。なんと不思議な調和です。

大会が行われるシェフィールドへは、ロンドンからさらに北へ数百キロ。気温はさらに下がり10度前後でした。まだサマータイムであり、昼間の長さは日本と同じくらい。時差は8時間です。

目が不自由な私は、前日に下見を兼ねて会場となる「オーサム・ウォール」へ足を運びました。ジムまでの道のりや、会場設備の位置関係などを確認するためです。

ジムでは、パラクライミング責任者でありルートセッターでもあるイアン・ダン氏とジムマネージャーが親切に私を案内してくれました。大会当日に向けて、ルートセットと設営に忙しいなか、あたたかなもてなしを受けました。

また、ホテルではドイツ・パラクライミングチームと共に楽しく過ごし、それぞれの国のパラクライミング事情を話すことができました。さらに、パラクライミングカップには専門医師が必ずしも出席していないこと。そのため障害の程度にかかわる最終診断にもト



ラブルが生じやすいことなど、現状の問題点を聞くことができました。

大会は、IFSCパラクライミングカップと、イギリスリードクライミング・スピードクライミング選手権との共同開催で、たくさんの観客とともににぎやかなイベントでした。

我々視覚障害カテゴリーについては、デモの登りをビデオにして映写され、事前にナビゲーターと確認できるなど、オブザーションの代りとなる配慮がなされていました。

MCには「はるばる日本からようこそ、YAMAZAKI!」と誰にもまして何度も応援していただき、とても感慨深かったです。

さらに大勢の盛り上がる観客も視覚障害カテゴリーが始まると、ナビゲーターの声を遮らないよう、完全に沈黙を守るなど、あたたかな配慮を感じました。

初の国際舞台は、イタリア、スペイン、イギリス選手に続き4位とほろ苦い結果となりましたが、とても多くのことを経験できました。

今回の私の参加を通じて、様々なアドバイスをくださった小林幸一郎選手と鈴木ナオヤさん、出発直前に激励してくれた会田祥選手。そして私の突然の参加を支えてくださった佐藤建さんをはじめ日本山岳・スポーツクライミング協会の皆さま。さらに日ごろより私の練習を応援してくださっている皆様、ほんとうにありがとうございました。

これからも私たちパラクライミングをより多くの皆さんが応援して下さるよう、我々選手もさらに実力向上を目指し進んでまいりたいと思います。



# 「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

東京都・高尾城北東尾根山行報告

東京都といえば、高層ビルの連立する大都会と連想されがちだが、東京都最高峰雲取山を主峰とする奥多摩地区、高尾山周辺地区など、都心から短時間のアプローチで楽しめる山々が数多く存在する。

2017年は雲取山標高2017mにちなみ、全国から多くの登山者が訪れ賑わいをみせた。また、年間登山者数270万人、世界一登山者の多い山としてギネスブックでも認定された高尾山の人気は広く知れ渡っている。高尾山はケーブルカー、リフトで気軽に山上まで上がることができ、老若男女問わず山歩きを楽しめることから週末ともなれば登山者、観光客であふれる。しかし、一歩足を進め裏高尾方面へ行けば、喧騒とは打って変わった静かな山歩きも可能である。

2017年12月3日、都岳連では山の日制定イベントとして、「安全で楽しい登山」をモットーに、紅葉の残る裏高尾方面、城山北東尾根山行を開催した。城山北東尾根は国土地理院地図では徒歩道のないバリエーションルートである。

早朝、JR高尾山駅に集合し、バスにて日影バス停まで移動。日影沢徒渉ののち、城山山頂を目指す。所々に急登も出てくる明らかな尾根を、地形図、スマホGPSアプリで読図をしながら山頂へ。等高線に現れない高低差、迷い込みやすい尾根の特徴なども説明しながら、まずは地形図に親しんでもらうことを目標とした。

山頂では都岳連スタッフが腕を振るった「本格すき焼き」を楽しんだ。自然の中での山の仲間との食事は格別なもので、参加者全員に笑顔が溢れた。

食後はこの山行の学びポイントの一つである、観天望気講習を行った。あいにくの快晴で、雲を眺めての観天望気はできなかったが、風、自然現象から天候を



予想すること、冬山の気象についても学んでいただいた。

下山は小仏峠を越え、小仏バス停まで。登山事故は下山中に多く発生する。下る際の歩き方、注意点などを説明しながら、無事下山し山行を終えた。

小春日和の一日、紅葉を楽しみながら、まさに山の日制定の目的「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」山行となったことをご報告する。

総務省統計によれば、登山人口は増加傾向にあり、なかでも東京都は日本一の登山者数を有する。しかし、山岳会所属者は年々減少し、個人山行者が多くを占めると気がかりな声を聞く。安全登山の発展、普及を責務とする都岳連としては、個人山行者に総合的登山知識を身に付けていただくための講習、交流山行などを継続し、山岳会所属への誘導を含め、登山者同士のコミュニティ作りにも一役買っていききたい。

(公益社団法人東京都山岳連盟)



“世界で最も美しい谷のひとつ”へ

**絶景のランタン谷トレッキング  
10日間**

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡

出発日 3/17(土)・4/21(土) 旅行代金 ¥416,000

※燃油サーチャージ(2017年11月20日現在:目安約11,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

**ALPINE TOUR SERVICE 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## 日韓交流登山について

先般、石川県山岳協会は設立50周年記念行事として、石川県の友好都市である韓国の全羅北道と交流登山を実施しました。

先ず7月に全羅北道の全州市山岳連盟19名が来日。来られたのは全員男性で、40歳代を中心とした屈強なメンバーと小学生2名。

当協会のガイドで開山1,300年を迎えた白山に1泊2日の行程で登りました。

当日は、雨は免れたもののあいにくの天候で眺望はなし。例年は咲き誇る高山植物も雪解けのタイミングでまだ蓄。それでも韓国では経験できない2,702mの高峰に登ることができて皆さん大満足されていました。

下山後は金沢市に移動して交流会を開催しました。通訳数名を配置したこともあり終始賑やかな雰囲気の中で行われました。

日程の関係で十分なおもてなしはできませんでしたが、再会を約束した後お別れしました。

10月今度は我々が訪韓しました。

到着翌日、既に顔見知りの全州市山岳連盟の方々のガイドで全羅北道の全州市にある智異山に向かいました。

事前に、訪韓メンバーは男女それぞれ9名、平均年齢70歳弱と伝えてあったので登山コースは智異山系では容易に登れる老姑壇(1,507m)ピーク往復に設定されていました。

また、我々のために、智異山国立公園の日本語ガイドやレスキュー隊員の同行が準備されているなど全州市山岳連盟の心遣いが嬉しかったです。

当日は晴天で紅葉も始まっており、眺望を楽しみながらの登山になりました。

\*

今回の訪韓は、石川県と全羅北道の交流であると同



時に、全州市が金沢市の姉妹都市であることから両市の友好発展のための交流でもありました。

下山後に全州市庁を訪問して金沢市長から預かってきた親書の手交等を行い両市の友好関係発展に寄与できたことも大きな成果でした。

日本と韓国の間には複雑な問題がありますが、このような民間交流を通して相互理解が進むことを願っております。

最後に、今回の交流登山に尽力いただいた(公財)石川県国際交流協会、金沢市及び通訳を引き受けていただいたNPO法人YOU・Iの関係各位に紙面を借りてお礼申し上げます。

(国際海外 森田伸彦)

## 国立登山研修所創立50周年記念式典・祝賀会

11月26日(日)に国立登山研修所創立50周年記念式典・祝賀会が富山市の高志会館で開催された。式典では主催者、ご来賓の挨拶の後、30人の功労者と協力者10団体に感謝状が贈られた。

記念講演では、重廣恒夫氏が「人と山を繋いだ登山研修所」の演題で講演。

式典後の祝賀会には約180人が参加され、半世紀に亙る登山研修所の歴史を懐かしみ、旧交を温められた。参加者には『国立登山研修所50年のあゆみ』、『高みを目指して』の記念誌と記念品が配られた。





## UIAA総会・理事会 UAAA総会報告

**日時** 2017年10月18日(水)～25日(水)

**場所** イラン・イスラム共和国

**出席** 八木原会長、小野寺(記録)

ともにイランの古都シラーズにおいて開催された。シラーズはイランの南西部に位置し、標高1,486m、人口約百万人で18世紀後半にはサンド朝ペルシャの首都であった。標高の割には殆ど砂漠地帯である。近くにはペルセポリスなどのユネスコの世界遺産にも指定されている遺跡がある。アレキサンダー大王によって滅ぼされるまでペルシャ帝国の栄華を誇っていて、歴史のロマンを感じさせる場所である。

シラーズのホテル・会議場の近くには小高い丘があり、頂上に至る場所には岩登りのゲレンデが小さいながらも多く連なっており、練習に励んでいる人も見られた。

### UIAA総会

以下の日程で開催された。ダブル内容もあり、主な議題についてはまとめて報告する。

#### ● 10月19日(木) 午後 インフォーマル理事会

フォーマルな理事会に先立って主要な議題の下打ち合わせのような感じで行われるが、批判的な意見もあり、次回からは連続してのフォーマル会議となる模様。

#### ● 10月20日(金) フォーマル理事会

インフォーマル、フォーマル共にホテルの一室にて開催された。後述するが、アジアにおけるUAAAみたいにヨーロッパでもEUMA(ヨーロッパ連合)を構成しようとしているらしいが、ドイツ、オーストリア、イタリアの大国とUIAA執行部が対立しているようで、予想されたことではあるが、今回の会議でそれら3つの国々の姿はなかった。委員会委員長の出席



UAAA 総会



UIAA 総会集合写真

も予定されていたのだが、それらの国々は出席していない。執行部や理事の役職にあるイタリア人は出席していない。総会にも出席しなかった。まさに異様な雰囲気であった。

#### ● 10月21日(土) 総会

開会式前にコーランが流れ、まさにイスラムの国の会議であった。当然議長席上段にはホメイニ師などの指導者の顔写真が並ぶ。会場もホテルではなく、バスで移動する別の大きな建物の中にあった。各国の代表者の前にその国の旗が並び、国際会議という雰囲気が演出された。

#### 〈主な内容〉

##### 1. 各委員会について

UIAAの委員会は、安全委、登山委、医事委、自然保護委、アクセス委、アイスクライミング委、アンチドーピング委、ユース委などがあり、活性化が求められている。メンバーは各々正規委員、エキスパート、特派員などに分かれており、正規委員は集会出席が義務付けられている。委員が世界にまたがっており、委員会統率は難しいようだ。自然保護委は賞を設置し、安全委は器機安全についての論文発表を行っている。登山委員会の中の標準化はSteve longが中心になって動いているが資金的バックが乏しいと言っている。特に理事メンバーと委員長の相互理解、そして、EBがそれらを纏めるとの提案がなされているのであるが、残念ながら半分の委員長が欠席していた。来年は次のステップとしてWorking Groupの設立を考えているとのこと。やはり、委員会活動にメスを入れたい意向がある。

安全委員会の器機検査場が中国の蘇州の近くに建設されている、委員長には欧米ではなく、インドのIMF会長Amitが今回新たに就任した。日本にもやがて協力依頼が来そうな雰囲気である。

##### 2. EUMA (European Union of Mountaineering Association) の創設について

特にヨーロッパ内部で複雑な問題をはらんでいる。なかなか理解しがたい。ヨーロッパ人の多くはEUMAを作ることには反対はしていない。寧ろ中小の連盟は賛成が多い感じがする。しかし、総会で賛否を取ろうとしたので、そのことをUIAAの中に持ち込むべきでない、第三者を巻き込む必要はないという意見があった。さらに個々の連盟の利益を守るための創設という意見がある一方、それは一面的という指摘がある。共にドイツ、オーストリア、イタリアの3大国とUIAAのEBとの対立が目立つ。背景には会費を多く収めている大きな団体と、多くの中小の団体、さらにそれを纏めているEBも含め確執がある。Power Game, Political Gameという言葉も飛び交う。残念ながら上記3国は欠席、それらの国に属するEB、委員長も欠席している。南アのGregはこれはヨーロッパだけの問題ではない、と言っていたがそれは正論で実際はもっとドロドロしている。日本は、内部の話なら別の場所で行ってくれ、と発言、その通りになった。

総会の合間にもヨーロッパ諸国が集まって議論していたが、3大国欠席では何ともならないだろう。

### 3. UIAA標準テキスト

元々フランス語を英語に翻訳したものが原本になっている。それが韓国語等に翻訳されている。トルコ語、アラビア語も予定しており、日本も近々契約を結び翻訳したいと考えている。UIAA, 日山協、ペッツェルの3社契約で契約書の原本を送るよう依頼している。

### 4. スカイランニング

スカイランニングとトレイルランニングは思想が違うとのこと。前者はバーチカルで急峻な壁(岩稜ではなく)などを登り3000m~4000mの高所を走る。後に日本のスカイランニング連盟に聞いたが同様のことを言っていた。後者は主に平坦な道を走る。統合は当分なく、個々に発展するだろうとのこと。

### 5. 会費の件

スロベニアからの提案で、他の連盟と比べて会費が高すぎる、年齢等考慮して安くしてほしいとのこと。2,3年前は南アがその国のGDPに合わせてほしいなど提案したが実現できなかった。年齢と言ったのはドイツ(会員数は100万人で一番大きい)の反対を意識していると思われる。他の連盟との比較ではIFSCは安いと言っていたが、必ずしも正しくはなく、そのあたりの構造を説明・発言しようと思ったが、IFSCに誤解されてもよくないので、それは止めた。

## 6. 次回の理事会・総会

2018年の理事会はネパールにおいて3月24,25日で行う。他のイベントと一緒に。総会は10月6日にモンゴルで行う。2019年の理事会は未定で、総会はキプロス(Cyprus)で行う。

## UAAA総会

### ● 10月22日 総会

参加者がUIAAに比較してそれほど多いわけでもない、ホテルの一室を使って行われた。また、今回は主要な議題があるわけでもなく、所要時間としては比較的短時間で終了した。

#### 〈主な内容〉

#### 1. 各国の活動状況について

例年の通り、順番に活動の報告が行われた。最近ではどの国もパワーポイントを使っての発表が多い。日本は日山協と労山が加盟しており、発表については珍しく共通の内容があったりした。特に那須岳の高校生の遭難についてである。

#### 2. 加盟団体について

1つの国からUAAAに加盟できるのは3連盟に制限したいとのこと。これはモンゴルを意識してのことである。個々の連盟は少人数なのに国内では一緒になれないらしい。困ったものである。

#### 3. 次年度以降の人事について

現在の会長であるInjeong Lee氏が再選された。他の役員としては、副会長にネパール、中国、そしてイラン、経理は台湾(中国台北健行登山協会)が継続となるだろう。

ネパールにおいてはSanta Lamaが会長に選出されたとメールをもらい、それに対してお祝いのメールを返信していたのだが、あにはからんや、来たのはAng Tshering SherpaとZimba Sherpaであった。いろいろと問題があるらしい。

#### 4. 次回

2018年の理事会はカザフスタンが指名された。6月頃とのこと。総会はUIAAに習い同時期にモンゴルで行う。

## 平成30年 新春懇談会

日時	平成30年1月13日(土) 13時~15時 (受付12時30分より)
会場	アルカディア市ヶ谷「富士の間」 東京都千代田区九段北4-2-25 (市ヶ谷駅下車徒歩3分)
会費	1万円

登山事故の防止については、例年関係方面の御協力をいただいているところですが、本年3月に栃木県那須町において発生した雪崩に伴い高等学校の生徒7名及び引率教員1名が亡くなるという事故を受けて、スポーツ庁では、本年9月に「高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議」を設置し、高校生(中等教育学校後期課程、特別支援学校 高等部を含む。)及び高等専門学校第1学年から第3学年までに属する生徒(以下、「高校生等」という。)の冬山登山の事故防止のための方策について、専門的な観点から検討を依頼し、本年11月28日、別紙1のとおり、報告書を取りまとめたいただきました。

本報告書では、冬山登山は遭難事故の発生の可能性がある非常に厳しい環境下で行われる活動であることから、高校生等は、引き続き、原則として冬山登山は禁止とし、例外的に実施する場合には、豊富な知識と経験を有する指導者が必要であることはもとより、計画の事前審査を行うなど万全の安全対策が不可決であると改めて確認されるとともに、今後の事故防止のための方策について具体的に提案されました。

スポーツ庁としては、本報告書を踏まえ、今後さらに施策の充実に取り組むこととしており、貴職におかれましても、別紙1を参考にしながら、高校生等については、下記のとおり原則として冬山登山は行わないよう、引き続き御指導願います。

また、近年、一般の冬山登山者は年々増加し、冬山における山岳遭難発生件数は増加傾向にあります。さらに、火山には、噴気や火山ガスが発生している危険な場所があり、登山する山が火山の場合には、気象庁や各都道府県等が発表している最新の情報を入手し、十分に注意する必要があります。

については、別紙2「冬山登山の警告」を関係機関・団体及び関係者に周知するとともに、密接な協力の下、この趣旨を登山者に周知徹底され、事故防止に万全を期されるよう御配慮願います。

このことについて、都道府県知事におかれては、所管の関係部局・機関・団体及び高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。)に対して、都道府県・指定都市教育委員会教育長におかれては、所管の関係部局・機関・団体及び高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。)並びに域内の市区町村教育委員会に対して、株式会社立高等学校を認定した地方公共団体の長におかれては、認可した

高等学校に対して周知願います。

また、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会及び公益財団法人全国高等学校体育連盟におかれては、各都道府県加盟団体等に周知するとともに、当該団体等において事故防止に係る積極的な取組が行われるよう御協力願います。

### 記

#### 1. 高校生等の冬山登山の原則禁止

高校生等については、総合的な登山経験が不足しているだけでなく、厳しい環境での登山における技術、体力、リスクマネジメント能力等が不十分であるため、冬山における安全を確保することは極めて難しいので、原則として冬山登山は行わないこと。

冬山登山とは、主に積雪期における登山とするが、時期に関わらず、気温の変化や降雪・積雪等の気象条件による凍結、吹雪、雪崩等に伴う転滑落、埋没、凍傷、低体温症などにより、遭難事故等が発生する可能性のある環境下で行う活動のことをいう。

なお、これには、各都道府県高等学校体育連盟(以下、「都道府県高体連」という。)が主催する登山や登山に関する講習会等を含み、スキー場のコース内におけるスノースポーツ<sup>(\*)</sup>を除く。

<sup>(\*)</sup>スノースポーツとは、スキー、スノーボード、チェアスキーその他の雪上のスポーツや遊びのこと

#### 2. 高校生等が例外的に冬山登山を実施する場合の条件及び留意点等

高校生等の登山の教育的意義の観点から、例外的に冬山登山を実施する場合には、次に掲げる実施するために必要な条件等を整えること。また、実施に当たっては、別紙1の「高校生等の冬山登山の事故防止のための方策について(平成29年11月28日、高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議)」を踏まえること。

##### [実施するために必要な条件等]

##### ①適切かつ安全な場所での基礎的な内容にとどめること

活動場所については、冬山登山の獲得目標を踏まえ、そのために適切な場所であるかを十分に複数で検討すること。その上で時期、気象状況、地形、斜度、積雪量、参加生徒と指導者の技量やバックアップ体制の充実程度などから選定すること。また、活動内容は安全登山のための基礎的な内容であり、登頂を目的とはせず、歩

行技術(歩き方、ラッセル等)や生活技術(幕営、炊事等)等の習得を目的とする活動とすること

## ②指導者の条件を整えること

冬山登山の実施に当たっては、必ず複数の指導者の引率体制とし、少なくとも1人(リーダー)は、冬山のようないくつな環境下での登山について豊富な知識と経験を有する者であり、山岳に係る資格を有していることが望ましい。なお、資格に準じるものとしては、国立登山研修所又は各都道府県が主催する研修会の履修とともに、一定の難易度以上の積雪期登山のリーダー経験を有し、継続的に活動していることが望ましい。

また、リーダー以外の引率者においても、登山に係る研修会・講習会に積極的かつ継続的に参加するなど、自ら資質向上に努めること。

## ③登山計画審査会(仮称)の事前審査を受けること

冬山登山を実施する高等学校(中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。)及び高等専門学校(以下「高等学校等」という。)又は都道府県高体連等は、事前に登山計画(活動目的、活動場所(山域、ルート)、活動内容、参加生徒等の活動経験、引率者・指導者の体制と資質、装備内容、荒天時の対策、緊急時の対策等)を作成し、各都道府県において設置する登山計画を審査する組織(登山計画審査会(仮称))の審査を受けるものとする。なお、審査対象としては、都道府県高体連が主催する講習会等も含めること。

各都道府県教育委員会、各都道府県私立学校主管部局及び都道府県高体連は、各機関が連携して地元の登山の専門家など外部有識者を含めた登山計画審査会(仮称)を設け、高等学校等又は都道府県高体連等が実施する冬山登山の登山計画を総合的に審査し、必要に応じて改善を指示すること。なお、これを通じて、登山指導者の育成を図ること。

また、各国公立大学法人附属、市町村立及び株式会社立の高等学校等においては、高校生等が参加する登山計画について、所在する都道府県の教育委員会、私立学校主管部局及び県高体連等と連携するなどして、地元の山岳関係団体や登山専門家の助言を求めること。

## ④校長及び保護者の了解を得ること

冬山登山の登山計画を作成する者(部活動顧問教員又は都道府県高体連の関係者等)は、適切な獲得目標を設定し、必ず事前に可能性のある行動範囲と行動内容、荒天時の変更案などを盛り込んだ登山計画等を示し、参加する高校生等の校長及び保護者の了解を得ること。

## ⑤生徒への事前指導等を実施すること

各高等学校等において、登山部の指導者は登山計画

の内容、留意すべき点、持ち物等について確認するとともに、考えられるリスク(危険)や対策等についても事前に指導しておくこと。併せて日頃の部活動の中で、冬山登山に必要な基礎的な知識、技術等に加えて、冬山登山の多様なリスクや安全確保についても指導しておくこと。

なお、高等学校等や都道府県高体連以外の団体が主催する高校生等以下が参加する冬山登山についても上記に準じて実施すること。

## 3. 高校登山部指導者の質の向上等について

高校生等の冬山登山を安全に実施するためには、冬山登山の活動中において部活動顧問教員等の指導者が気象条件等を踏まえて適切に判断することが必要であり、そのためには指導者各々の質の向上に取り組まなければならないことから、登山部を設置する高等学校等の校長、学校の設置者又は各自治体の関係者においては、部活動顧問教員等の指導者の研修機会を確保するとともに、研修会への参加に配慮を行うこと。

(以下は、本協会のHPで確認してください。)

別紙1:「高校生等の冬山登山の事故防止のための方策について(平成28年11月28日、高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議)」

別紙2:「冬山登山の警告ー冬山の三大リスクに備えましょうー(平成29年12月、山岳遭難対策中央協議会)」

## 平成29年度第3回理事会報告

11月12日(日)に岸記念体育会館で第3回理事会が開催された。

議事に先立ち、八木原会長から「今年度は、役員改選や委員長交代もあって人心一新の出発となった。組織の改編やガバナンス委員会による諸規程・規則の整備も進み、中央競技団体としてよい形になってきた。ブロック理事にも業務を担って頂きたい。」と挨拶があった。

○**出席理事**：八木原罔明、亀山健太郎、高橋時夫、伊藤克己、平山裕示、尾形好雄、小野寺斉、水島彰治、村岡正己、小日向徹、合田雄治郎、仙石富英、町田幸男、相良忠麿、小野倫夫、吉田弘司、小宮山稔、森庄一、滝田博之、古賀英年、松本実、木村康男、工藤文昭

○**出席監事**：内藤順造、中畠正喜、古屋寿隆

○**同席者**：ガバナンス委員の多賀啓、和田研史

○**欠席理事**：蛭田伸一、中瀬和徳

### 〈議 事〉

1. 議案第1号 平成30年度事業及び予算編成方針

## について

小野寺事務局長から提案説明があり、採決が諮られた。

- 賛成23、反対0で一部訂正を加えて可決。

## 2. 議案第2号 規程・規則の改訂について

①名誉会長、顧問、参与に関する規程 ②加盟団体規程 ③表彰規程 ④倫理規程 ⑤裁定審査会規程 ⑥登録選手規程・細則 ⑦個人情報保護及取扱規程 ⑧個人情報の保護に関する監査規程 ⑨個人情報の外部委託管理に関する規程 ⑩旅費等規程 ⑪謝金及び報酬に関する規程 ⑫情報公開規程 ⑬公認規程(新設) ⑭国民スポーツ登山振興基金設置規程 ⑮会計処理規程等の改定説明がなされた後、質疑応答を受けた。

- 以上、規程ごとに採決が諮られ、一部訂正を加えて、各規程とも賛成23、反対0で可決。

### 〈報告〉

- ①報告第1号 平成29年度上期事業・会計及び業務・会計中間監査報告  
上期事業報告(小野寺常務理事)、会計報告(相良理事)、監査報告(内藤監事)が行われた。
- ②報告第2号 平成29年度上期山岳共済会報告及び業務・会計中間監査報告  
上期報告(尾形専務理事)、監査報告(内藤監事)が行われた。
- ③報告第3号 近畿地区からの登録選手規程の質問について

合田常務理事より説明があった。

- ④報告第4号 国体ブロック大会の要望について  
客観的に調査して検討することが報告された。
- ⑤報告第5号 第2次補正予算について  
第13回B J Cの補正予算が報告された。
- ⑥報告第6号 予算管理フローチャートについて  
小野寺事務局長から資料に基づき説明があった。
- ⑦報告第7号 業務執行理事の職務執行報告  
各業務執行理事から報告書に基づいて報告がなされた。
- ⑧報告第8号 第56回全日本登山大会・北海道大会報告  
小野理事から報告と御礼挨拶があった。
- ⑨報告第9号 第72回愛媛国体山岳競技報告  
村岡理事から報告があった。
- ⑩報告第10号 I F S C世界ユース選手権、アジアクライミング選手権報告  
小日向理事から報告があった。

### 〈その他〉

- ①ブロック代表理事の分担について会長から要請。
- ②公益社団法人の理事の責任について(合田常務理事より説明)
- ③登山部の連絡会について亀山副会長から要請。
- ④女性役員の登用について会長から検討要請があった。
- ⑤スポーツクライミングのDVDが各ブロックに配布された。



平成29年度11月  
常務理事会報告

日時 平成29年11月6日(月)  
18時～21時40分

場所 岸記念体育会館・4階特別会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、村岡、小日向、合田、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中島、古屋監事(16名中16名出席)

同席者 西原国体委員長  
常務理事会に先立ち西原国体委員長から国体参加資格違反の報告があった。

## 1. 議事

- (1)平成29年度10月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (2)各種規程の改定案について  
下記規程について合田常務理事より提案説明があった。
- ①加盟団体規程

第11条と第14条の一部修正で、提案通り承認。

- ②個人情報の取扱いに関する外部委託管理規程  
第3条2文字削除で、提案通り承認。
- ③個人情報の保護に関する監査規程  
第11条第2項2文字訂正で、提案通り承認。
- ④個人情報保護及び取扱規程  
第2条第1項第10号2文字訂正で、提案通り承認。
- ⑤情報公開規程  
提案通り異議なく承認。
- ⑥会計処理規程  
第12条2文字加筆で、提案通り承認。
- ⑦スポーツクライミング大会安全管理細則  
後日ガバナンス委員会で検討後に規程として再提案することになった。
- ⑧「国民スポーツ登山振興基金」特別積立金設置規程  
提案通り異議なく承認。
- ⑨登録選手登録規程の適用時期について  
提案通り異議なく承認。
- (3)平成30年度事業及び予算編成方針(案)について  
文章を一部加筆・訂正の上、承認。
- (4)近畿地区からの登録選手規程について

の質問について

理事会では合田常務理事が報告事項で説明する。

- (5)第2次補正予算について  
第13回B J Cの補正予算について提案があり、承認された。
- (6)国体ブロック大会の要望について  
小野寺常務理事より資料に基づいての提案説明があり、客観的に調査して検討することになった。
- (7)パラクライミング日本選手権について  
村岡常務理事より資料に基づいての提案説明があり、開催は今年限りとすることで了承。
- (8)29年度第3回理事会次第について  
小野寺常務理事より資料に基づいての提案があり、議案2題は報告に回すことで承認された。
- (9)日本スポーツ賞候補者推薦について  
是永敬一郎選手を推薦することで承認。
- (10)新春懇談会における感謝状贈呈について  
伊藤副会長より日山協事業の主管岳連への感謝状贈呈について提案があり、12月常務理事会までに検討する。
- (11)ホームページ運用について  
運用については早いうちの対応が必要

との意見が多数あり。

**2. 報告事項**

- (1)平成29年度上期事業及び会計報告  
小野寺常務理事より資料に基づいて報告があった。
- (2)平成29年度上期事業及び会計の監査報告  
中島監事、古屋監事より資料に基づいて報告があった。
- (3)平成29年度上期共済会事業及び会計報告  
尾形共済会会長より資料に基づいて報告があった。
- (4)平成29年度上期共済会事業及び会計報告の監査報告  
中島監事、古屋監事より資料に基づいて報告があった。
- (5)予算管理フローチャートについて  
小野寺常務理事より資料に基づいて報告があった。
- (6)「はんしん自立の家甲山登山隊」植村直己冒険賞特別賞受賞御礼報告  
小野寺常務理事より資料に基づいて報告があった。
- (7)選手説明会について(12/17)  
合田常務理事より口頭で報告があった。明治大学駿河台校舎で行うとのこと。
- (8)S C 部専任事務局員採用について、  
合田常務理事より口頭で報告があった。
- (9)U I A A / U A A A 総会概要報告

- 小野寺常務理事より資料に基づいて報告があった。
- (10)各委員会報告  
今回は時間の都合で割愛した。合田常務理事より次回に委員長を集めて報告してほしいとの要望があった。
- (11)山岳共済会平成30年度版パンフレット  
尾形共済会会長より資料に基づいて報告があった。

**3. 後援報告、協賛等の依頼について**

- (1)一般社団法人広島県山岳連盟・比婆山スカイラン後援承認について
- (2)第38回登山医学会学術集会後援承認について  
上記2点は例年通りということで提案通り承認。

**4. その他の重要事項**

- (10月15日～11月6日)
- (1)U I A A 及 U A A A 総会 10月17日(月)～25日(水) 於：イランシラーズ 八木原会長、小野寺常務理事
- (2)高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議 10月17日(火) 於：文部科学省16階 尾形専務理事
- (3)オリンピック強化指定選手A D 研修会 10月18日(水) 於：N T C 研修室 合田常務理事
- (4)J S T A セミナー 10月20日(金) 於：共同通信会館5F 合田常務理事

- (5)雪崩防災週間実行委員会 10月25日(水) 於：中央合同庁舎第3号館1F 尾形専務理事
- (6)プラティバ・ラナ新駐日ネパール大使歓迎会 10月25日(水) 於：K K R ホテル東京 尾形専務理事
- (7)東京2020オリンピック競技大会国内競技団体協議会 10月27日(金) 於：虎ノ門オフィスT O K Y O 1・2 尾形専務理事
- (8)(一財)全国山の日協議会運営委員会 10月30日(月) 於：四谷健康センター集會室 尾形専務理事
- (9)29年度上期中間業務会計監査 11月1日(水) 於：岸記念体育会館 内藤監事、中島監事、古屋監事、尾形専務理事、小野寺常務理事 相良財務担当理事

**寄贈図書**

奇贈本 雑誌	(株)山と溪谷社	「アウトドア・ものログ」著：芹澤一洋
	(独)日本スポーツ振興センター	「国立登山研修所50年の歩み」
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.992
	(株)ネイチャーエンタープライズ	「岳人」No.846
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第552号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」通巻577号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第605号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第425号
	中国登山協会	「山野」2017/09 総229期
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.61
会報	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.475
	FEEC	「VERTEX」274
	中華民国山岳協会	「中華山岳」《雙月刊》261
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.11
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.338
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.34
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.227
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.514
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」Vol.278
	(公財)日本体育協会	2017年11月13日号 体協フェアプレイニュース/体協スポーツニュース
東京野歩会	「山嶺」VOL.95	
(公社)日本山岳会	「山」No.870	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.696	
中国登山協会	「山野」総231期	
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第333号	



**編集後記**

今年は本号(585号)で最終便となり、寄稿して下さった方々に感謝致します。本協会は名称変更、役員・組織体制等の改革を矢継ぎ早に行った激動の年でした。登山月報にも新しい風を吹き込む企画、スタッフが必要と感じた年でもありました。来年も協力の程宜しく願います。

(広報担当 水島彰治)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**  
**神奈川県事務局**

〒252-0184  
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 **北丹沢山岳センター**  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第585号**

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年12月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

山岳  
雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



1月号  
発売中

## 【特集】冬の八ヶ岳

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中！

毎月15日発売 価格815円(+税)

## 年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)

1年間で815円  
1冊分無料

## 年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント！

### 岳人フォールディング スプーン

フィールドで活躍する  
スプーン&フォーク。  
岳人オリジナル  
ケース付き。

※色はお選び  
いただけません



▲折りたたみ時

さらに

はじめて  
お申し込みの方に



岳人ピンバッジ

ご継続の方に



オリジナルBOX

年間購読  
お申し込み方法

●ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp/>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)  
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp/>

期待される、  
という希望。

期待されすぎている、  
という不安。



未来は、  
希望と不安で、  
できている。

明日をつよく。三井住友海上

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト  
( [www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/) )



WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com) )